

# 熊大通信

vol. 76  
2020 SPRING

## 巻頭特集

### 学長×学生座談会

熊本にいながら留学しているような毎日  
GLC(グローバルリーダーコース)

## 特集 I

ことわり

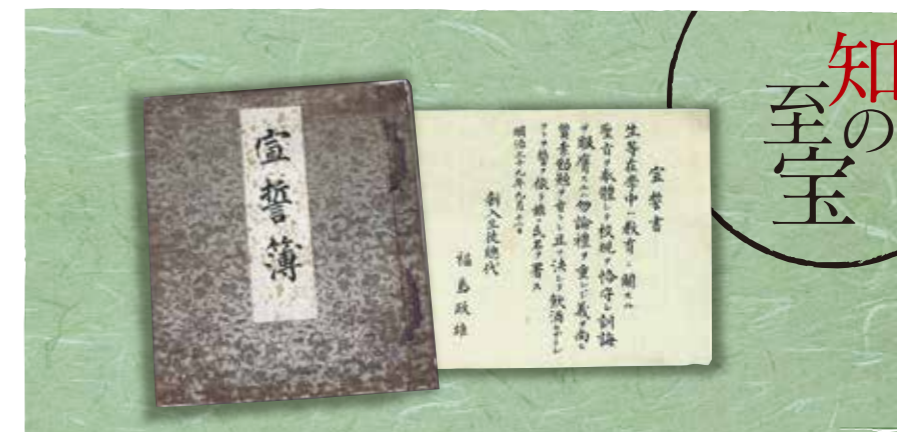
### 「理」を究める

新たな知のフロンティアを目指す  
熊本大学の基礎研究

## 特集 II

### 卒業生ジャーナル拡大版

教えて！先輩！  
夢を叶えた先輩方に在学生がインタビュー



誓簿と新入生徒総代誓書

## 入学式における禁酒の誓い

1906(明治39)年の入学式において、新入生徒総代 福島政雄が読み上げた誓書である。

1900(明治33)年、桜井房記が第五代校長に就任すると、新入生には入学の日に誓簿への署名が求められるようになった。

桜井は、1890(明治23)年2月から五高教授として教鞭を執っており、日頃から酒を飲んで授業をおろそかにする生徒が少なからずいることを憂慮していた。しかし校則で縛ることはせず、自主性を重んじ、自ら宣誓させることで飲酒を規制することにしたのである。前任の校長 中川元<sup>はじめ</sup>や嘉納治五郎も、生徒たちに身を慎み勉学に励むことを求めているが、禁酒を求めることまではなかった。

親元や中学校にも宣誓のことを了解させ、禁酒の誓いを破った生徒が除名になるということも起こり、卒業生からは「禁酒令が出たそうだが、飲み物である麦酒と葡萄酒は当然除外だろう…」などと、からかい半分の手紙が龍南会雑誌に投稿された。

生徒たちは大いに不満であったが、この署名は、桜井が退任し、第六代校長 松浦寅三郎が就任した1907(明治40)年まで続けられた。

文 藤本秀子(五高記念館)

※五高記念館(国指定重要文化財)は、熊本地震による被害のため長期休館中です。

# 熊大通信

vol. 76  
2020 SPRING

## CONTENTS

- 03 巻頭特集 学長×学生座談会  
熊本にいなから留学しているような毎日  
GLC(グローバルリーダーコース)
- 05 特集Ⅰ ことわり  
「理」を究める  
新たな知のフロンティアを目指す  
熊本大学の基礎研究
- 13 研究室探訪 税や社会保障という  
「公共のお金の流れ」を考える  
法学部  
島村 玲雄 講師
- 15 特集Ⅱ 卒業生ジャーナル拡大版  
教えて!先輩!  
夢を叶えた先輩方に在学生在がインタビュー
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

熊本大学広報誌 熊大通信 vol.76

\*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】国立大学法人熊本大学  
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1  
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3110  
sos-koho@jimmu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】熊大通信編集委員会  
鷲見 直哉/委員長 大学院先端科学研究部(理学系)  
安村 明/大学院人文社会科学部(文学系)  
松永 拓己/大学院教育学研究科  
河野憲一郎/大学院人文社会科学部(法学系)  
一柳 錦平/大学院先端科学研究部(理学系)  
尼崎 太樹/大学院先端科学研究部(工学系)  
永田まなみ/大学院生命科学研究部(保健学系)  
首藤 剛/大学院生命科学研究部(薬学系)  
立山 三雄/総務部総務課広報戦略室長

【制作】株式会社 談

表紙 / 【原画】松永 拓己 / 大学院教育学研究科准教授  
赤門に咲く桜の中の熊大生

※本誌記載職名、学年等は取材時のものです。

熊大生、拓く。  
科学の楽しさを子どもたちへ!

毎年11月に、熊本大学黒髪南地区で開催されている「夢科学探検」。学生や教員が、日頃の研究成果を活かした展示や実験を通して、子どもたちや地域の人に科学の楽しさ、おもしろさを、体験させてくれるイベントだ。

展示ブースの1つ「熊本大学 ECR プロジェクト」では、鈴鹿サーキットで開催された「2019Ene-1Challenge」の大学・高专・専門学校部門で優勝した車両を展示。単三電池40本を動力源にサーキットを走った車両に乗った子どもたちは、未来の車の姿に目を輝かせていた。



# 熊本にしながら留学しているような毎日 GLC

巻頭特集 学長×学生 座談会

熊本大学 学長  
原田 信志  
HARADA Shinji

グローバルリーダーコース1期生  
理学部3年生  
菊川 琴美  
KIKUKAWA Kotomi

法学部2年生  
小嶋 尚瑛  
KOJIMA Naoaki

熊本大学では、2017年度にグローバルリーダーコース(以下、GLCと表記)を設立。このコースに入学した学生たちは、留学生とともに英語で授業を受けるだけでなく、様々なテーマのディスカッションやプレゼンテーション、研修や留学を体験することで、グローバルリーダーとして活躍できる力を身につけています。今回は、グローバル教育カレッジ棟で、GLC1期生が、原田学長と対談を行いました。



は、その力を身につけるチャンスを用意しています。

**菊川** 確かに、GLCに在籍していると、熊本にしながら留学しているような毎日を送ることができます。

**小嶋** この建物ほどの学部のある学生にもオープンなので、コース以外の学生も留学生と交流できる。その機会は最大限活用したほうがいいですね。

**原田** いろいろな文化や社会を知るには、英語以外の外国語も知っておいたほうがいいと思います。様々な国の人と付き合いを深めて、どんな地球感覚の考え方や社会を知ってほしいですね。

## チャンスは与えてもらえる どう活かすかは自分次第

**菊川** 私はGLCで出会ったたくさんの留学生から、自分の身の周りのことに問題意識を持つ大切さを学びました。

そこで、2019年3月に、国連で開催される女性の地位確立のための会議に参加したんです。ジェンダーや環境問題、問題を話し合いますが、参加者はそれぞれ文化・社会的背景が違うので視点も違い、問題を解決する難しさと共有する大切さを実感し、とても刺激を受

けました。

**小嶋** 私は2年生になる前に1年間留学しました。初めての海外であるオーストラリアで、多人種の社会にすごいカルチャーショックを受けました。アジア人として差別的な扱いを受けたことも。でも、これが世界だと知るいい経験になりました。

**原田** 医学部の教授をしていた時、研究室には様々な国から学生が集まっていました。見た目が日本人と違う国の学生はちやほやしてもらえないけど、中国人学生だとそうはいかない。研究室という狭いところにも、そういう人種による違いがもたらす「世界」があり、それを知ることも勉強です。菊川さんの国連の会議参加も小嶋さんの留学もとてもいい経験をしましたね。今後の進路はどう考えているんですか？

**菊川** 学部卒業後は大学院進学を考えていて、ジェンダーや環境問題に取り組みたいので海外の大学院にも行ってみたいですね。

**小嶋** もうすぐ3年生で就職活動もまだですが、ここで学んだからには、将来は海外で働きたいと思っています。学生のうちに留学生とどんどん交流して、様々な人種や国籍の人と触れ合う機会を作っておくことが、海外であれ日本であれ役立つと思います。

**菊川** 私はGLCで、何でも話せる一

生の友だちとなる留学生の友人ができました。留学生や他学部の学生と一緒に学べる環境は貴重だし、先生方もたくさん交流のチャンスを与えてくれます。そこをどう活かすかは自分のやる気次第です。

**原田** その通りですね。私は、熊本大学で学ぶすべての学生に、チャレンジ精神を持ってほしいと思っています。自らチャレンジするものを見つけて、それを達成する努力をすること。それが一番大切だと思います。



グローバルリーダーコース1期生合宿旅行(芦北)

## 言葉だけじゃない！ 文化や社会の違いも理解すべき

**原田** 海外からの留学生をできるだけたくさん受け入れ、日本人学生が留学生との交流やカリキュラムを通して国際感覚を身につけることを目的に設立されたのが、GLCです。お二人は、これまでコースで学んでどうですか。

**菊川** 特に最初の基礎の1年は、留学生と一緒に英語で授業を受け、英語でたくさんディスカッションできたことがよかったです。入学前の予想以上に様々な国の人と交流でき、政治や社会問題についても一緒に考える機会がたくさんありました。

**小嶋** 私も、英語でのディスカッションの機会がすごく多くてよかったです。思っています。このコースに所属していると、たくさん留学生と接する機会が増えて、いろいろな知識を得ることができました。

**原田** 学長になる前、医学部で講義をしていた頃は、学生に「若いうちに海外に行ってできるだけいろいろな体験をしたほうがいい」とよく言っていました。単に外国語が話せるというのではなく、多様な文化や社会構造、ものの考え方、生活様式を十分に理解できる人がグローバル人材です。GLCで



小嶋 尚瑛さん



菊川 琴美さん



原田 信志 学長

# 理を究める

ことわり

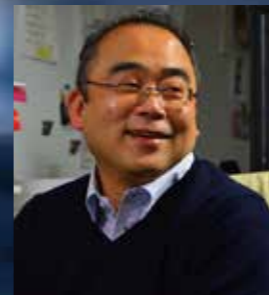
## 新たな知のフロンティアを目指す 熊本大学の基礎研究

基礎研究とは一般に「真理の探究」や「基礎原理の解明」を志向する研究と説明されます。それは、既存の研究技術の限界を打ち破り、革新的なモノやサービスを生み出す大きな可能性をもった研究でもあります。

この20年ほど、日本人研究者がノーベル賞受賞者や候補の常連となっているのも、営々と続けられてきた基礎研究の賜物だといわれます。

熊本大学でも、新たな「基礎原理の解明」を目指してさまざまな研究が行われています。今号では、理学、文学、生命科学の分野における基礎研究を紹介します。

無限の組み合わせからなる  
金属錯体  
世界を変える可能性も無限



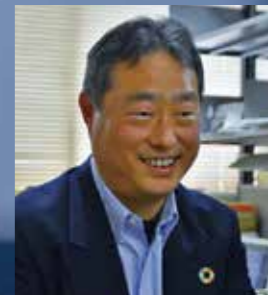
大学院  
先端科学研究部(理学系)  
教授 速水 真也

善い人になることは  
そして、幸せに生きることは何か



大学院  
人文社会科学部(文学系)  
准教授 立花 幸司

生命現象の根幹を担う「血管」  
その制御の仕組みを追う



生命資源研究・支援センター  
分子血管制御分野 教授 南 敬

金属錯体を研究する中、酸化グラフェンの基礎研究で世界初の発見

速水教授が行っているのは、有機物などの非金属と金属の原子が結合された化合物である金属錯体の性質を明らかにするという基礎研究です。金属錯体には金属イオンが入っているため、例えば磁石になる・ならない、電気が流れる・流れない、などの物理的性質を持っています。

「人工のものも含め、1-18個ある元素を用いて、金属錯体は自由自在に作ることができ、その組み合わせは無限です。つまり、無限の可能性を持つのが金属錯体であり、そんな金属錯体で世界を変えるのが私の研究だと考えています」と速水教授。金属錯体はすでに、LED、液晶ディスプレイ、印刷機のトナー、そして抗がん剤など、私たちの身近なところで様々な活用されています。「今後はIOTと融合しながら応用されたり、機能性分子、材料、医薬品など、様々な分野におけるさらなる応用が期待されています」と話してくれました。

金属錯体を研究する中、速水教授は酸化グラフェンにも注目しました。グラフェンとは炭素原子1個分の厚みしか

かない薄いシートで、柔軟で鋼鉄の100倍の強さを持ちます。このグラフェンが酸化した構造をもつ酸化グラフェンは金属と結合ができるという特徴があります。「そこでこの酸化グラフェンに金属イオンを入れて金属錯体を作ることを考え、まずは酸化グラフェンの性質を調べたんです」。その成果は、世界初の酸化グラフェンのイオン伝導の確認につながりました。この性質を活かせば燃料電池に応用できることが分かり、そこから世界中で酸化グラフェンを使った燃料電池開発研究が始まりました。さらに速水教授は、バクテリアを分解する酸化グラフェンがセルロースも分解することを解析し論文で報告。これは、バイオマスのエネルギー変換に活用できる可能性につながります。そのほかにも、電気が流れることで細胞の活性化と成長を促せることから、酸化グラフェンの歯科治療への応用研究を行っているほか、酸化グラフェンを用いたダイヤモンド合成を行い、その超伝導性にも着目しています。

世界の研究の潮流を速水研究室から

さまざまな金属錯体を作り、その性

特集I 理を究める

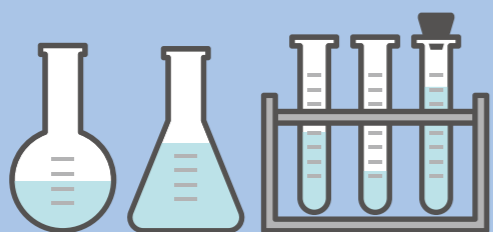
無限の組み合わせからなる金属錯体 世界を変える可能性も無限

速水真也教授の専門は金属錯体。有機物などと金属イオンを組み合わせる化合物を作り、その物理的性質を測定・解析する研究です。

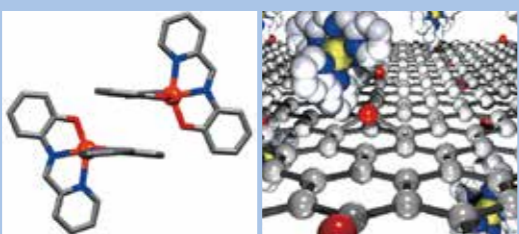
組み合わせは無限にあり、金属錯体は無限の可能性があるといます。

金属錯体研究の基礎から応用までの流れ

さまざまな組み合わせで金属錯体を作成



どんな性質をもつのかを明らかに



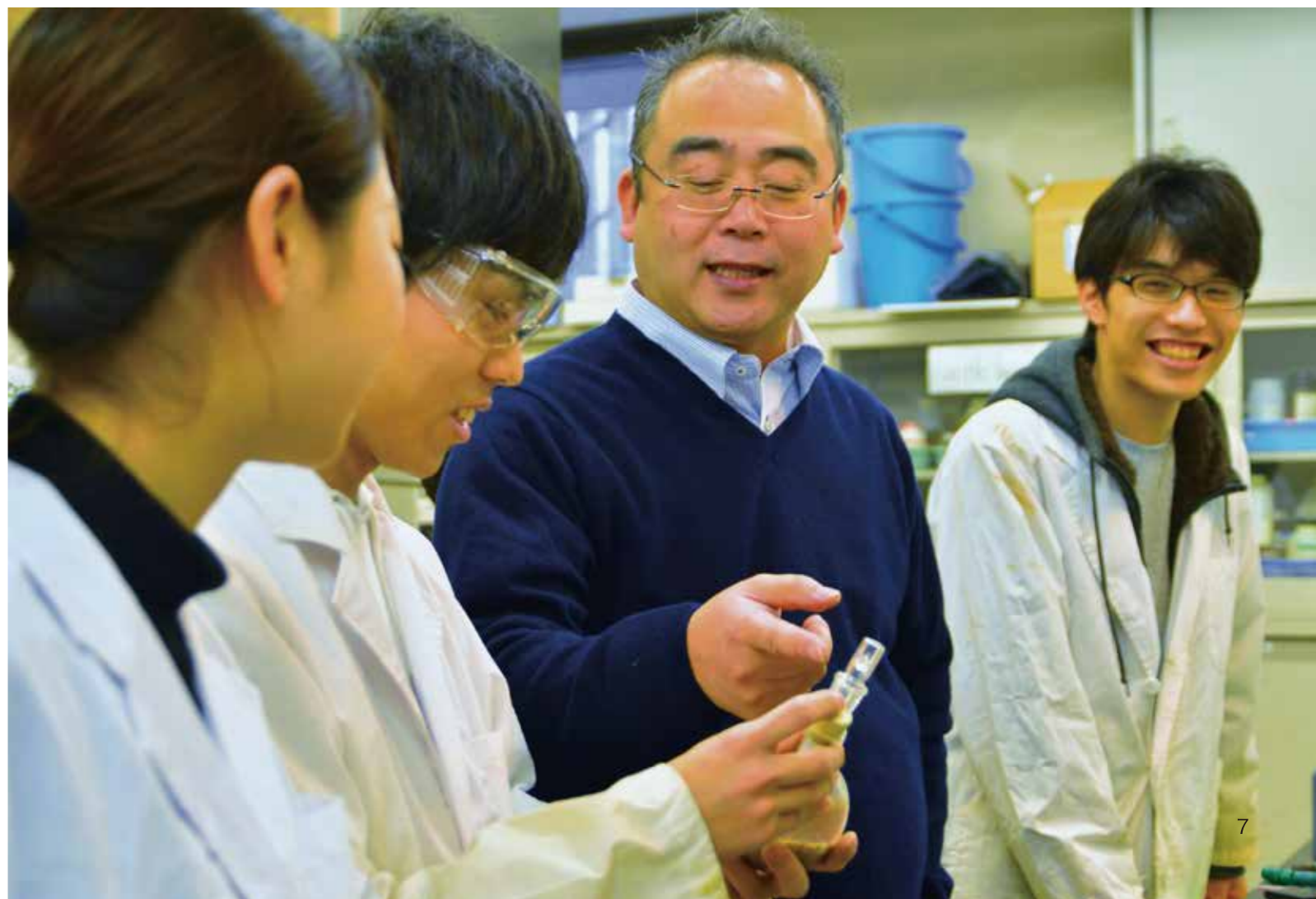
物理的性質を活用した新しい材料、医薬品などへ応用



質を明らかにする速水教授の研究。新たな性質を持つ物質の発見も生まれ、様々な応用につながっています。「これは、化合物の組み合わせは無限にありますから、闇雲に作るわけにはいきません。何を指して作るのか、そのコンセプトがないと難しい。例えば学生も、タッチパネルを作りたいとか、ある程度研究の目標を打ち出しておかないと何をしたいかわからなくなりますが、基礎研究ではありますが、先を

見据えて行わないといけません。金属錯体が様々な分野でブレイクスルーを起こしている今、世界の研究の動向も把握したうえで始める必要もあり、さらには、「基礎、応用という枠組みにとられず、社会の課題や自分の興味を追いかけるといふ姿勢」も研究には不可欠だと言います。

きた時、工夫して行った測定がうまくいった時、そして、評価した後に非常に興味深い現象だと分かった時に、この研究の面白さを感じると速水教授。速水研究室では、速水教授も学生たちも、「世界の研究の潮流を作る」ことをテーマに日々取り組んでいます。「二つの研究領域を創りあげればそれは次世代へと受け継がれ、新しい学問体系や応用発展が期待できます」と話してくれました。



大学院先端科学研究部(理学系) 速水 真也 教授

HAYAMI Shin-ya

1997年九州大学大学院理学研究科化学専攻博士後期課程修了。九州大学、広島大学等を経て2009年熊本大学へ。専門は錯体化学、固体物性化学、光化学。



プラスチックの中で作り出されているさまざまな金属錯体

「価値」は本当に世界の側にあるのか

例えば、目の前に虐げられている人がいて、それを見た私たちは、人が虐げられているその状況を「善くない」と感じたとしても、「その時、それは単に、善くないと感じている私たちの思いがプロジェクトのように世界(状況)に投影されているだけだ」という考え方があり、本当に善くないという価値が世界(状況)の側にあるのだ、という考え方があります。この二つの考え方を踏まえると、私たちは、意見を一致させようとする時に何をしているのか、という疑問に向き合えます。世界の側に価値がないのなら、私たちはただお互いの意見を一致させようとしているだけ。でも世界の側に、善いものは善い、悪いものは悪いという価値があるのなら、私たちが意見を一致させようとする時、それは世界の在り方と一致させようとする営みだと考えることができます。あれは善い、あれは悪いと言っている時、私たちは実際に何をしているのか。世界には価値があるのか、それとも私たちの思い込みなのか。「人間にとって善とは何かを研究し、そこからさらに、より善く生きるとは何かを学問として研究する」。それが徳倫理学だと立花准教授が話してくれました。

哲学倫理学の中にある様々な分野の中

で「人間の幸福を、善い人になるという観点から考えると、どうしても、人間の心理や人間とはどういう生き物かという問題につきあたります。したがって、徳倫理学は倫理学の中では珍しく、経験科学や自然科学の知見に目配りをしながら研究が行われます」と立花准教授。その研究は、脳神経科学に注目した倫理や道徳の在り方や、有人宇宙開発から考える人間の性格の在り方にもおよびます。私たちの倫理性や社会性は、閉鎖や隔離という状況でどうなるのかを知ることは大切ですが研究は進んでいません。「それを進められる」と考えたのが国際宇宙ステーションでした。高い知性、健康、精神力、社会性、そのすべてを持ち選び抜かれた宇宙飛行士でさえ、閉鎖された環境ではものすごいストレスを受けます。すでにある宇宙医学や宇宙心理学は基本的に宇宙飛行士のための研究ですから、徳倫理学の私が入ることで、その研究成果を地球に戻し、人々のより善い生活のために、例えば避難所の支援や児童虐待の問題につなげていくことも考えています」と今後の展望も話してくれました。

考えを頑張って言葉にしてみると、何かが見つかる

徳倫理学

理を究める

善い人になるとは  
そして、幸せに生きるとは何か

哲学倫理学を研究する立花幸司准教授の専門分野は徳倫理学。2500年前にアリストテレスが唱えた倫理学に起源を持つ学問です。善い人になる、善い生活を送る、そして幸せに生きるとは何なのか。「自分を理解する」きっかけとなるのが、徳倫理学です。

特集I

徳倫理学はアリストテレスから始まり、経験科学や20世紀の分析哲学という背景もあるため「分かりにくく、なかなか人から理解されることはありません(笑)」と立花准教授。しかし「周りにどう思われても、自分が面白いと思うことをとことんやって、それを一生懸命言葉にしてなんとか伝えようとしてみると、何かが見つかるとか伝えない。それをやること自体に、自分を理解する上で意味があります」。さらに、考え、議論を重ねる研究において「自分の意見に対する批判は、相手が自分の意見を聞いてくれていて、こととであり、これほどありがたいことはありません。いかに私が間違っているかを言ってもらえれば、自分が考えていることが先に進みます。正しいか間違っているかは重要ではなく「自分が考えたことに対し、共感されても批判されても楽しいと思えるなら、この研究に向いています」。

そして学生の皆さんには「友だちと一緒に過ごし友だちに合わせるのも悪いことではありませんが、ぜひ、これでもいいのかな?と考えてみてほしい。周りよりちょっとだけ早く成長してみるのも大事です。同時に、周りにのみ込まれず子どもそのままでもあり続ける。そんな2つを同時に成し遂げられると、おもしろい大学生活を送ることができると思っています」。



大学院 人文社会科学部(文学系) 立花 幸司 准教授

TACHIBANA Koji  
2012年東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修了。博士(学術)。2013年より熊本大学、2015年よりジョージタウン大学メディカルセンター国際連携研究員。「(よくなる)とはどういうことか」という切り口から、倫理学上の諸問題に取り組む。



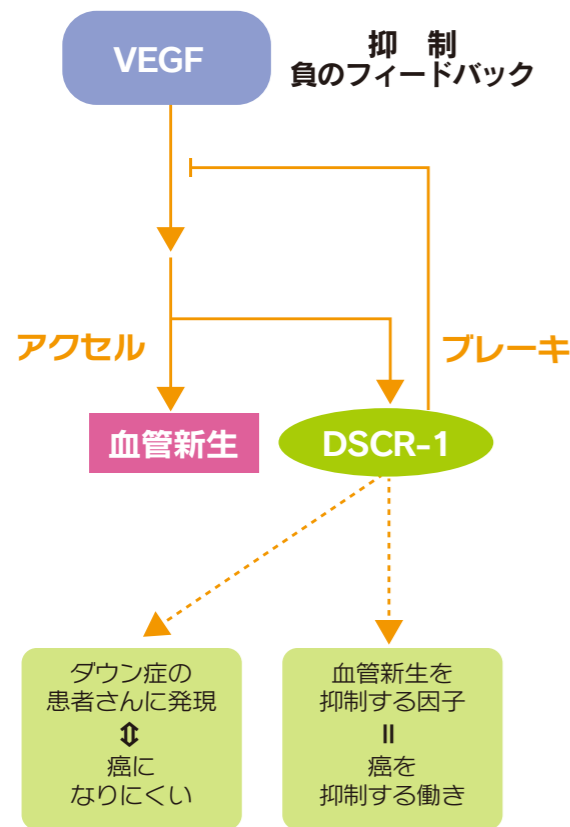
立花先生が翻訳された本



国際会議で報告する立花先生



※VEGF:Vascular endothelial growth factor;血管内皮細胞増殖因子  
正常な体の血管新生に関わることで知られるが、癌の血管形成や転移  
などにも関与している。



私たちは、血管がなければ酸素や栄養を行き渡らせることができず、成長することも、生命を維持することもできません。「血管が正常に機能しなければ呼吸できず、血圧もコントロールできない。薬を飲んでも、血管がなければ適所で効果を発揮できません。血管は、人間の生命現象の最も重要な根幹(恒常性維持)を担っています」と南教授。さらには、心不全や脳血管障害は血管病であり、がん細胞を大きくするのは血管であることなど、三大疾患と呼ばれる病気のすべてに血管がかかわります。生命に不可欠な血管がどのようにしてできあがり、ケガや動脈硬化の時どのように新生するのかなど、血管制御の仕組みについて研究しているのが南教授です。

さらには、DSCR-1がダウン症の患者さんで発現・機能が更新していることもわかっており、研究が進められています。「実はダウン症の方は、動脈硬化にもがんにもなりません。DSCR-1はダウン症の因子ですが、同時に血管をすごく守っていることが分かっています」。これを証明した南教授らの論文は、イギリスの科学雑誌ネイチャーに掲載されました。

「日本につながっている血管は、なぜこれほど合理的なのか。同じ血管内皮細胞に分化しても、さらにその後、絶対に血を固めない動脈、出血の効率率よく止血をするため凝固因子の発現を持つ静脈、穴を有し、濾すという機能があつてはいけない心臓の血管と、それぞれ環境に合わせて変わります。さらに5年前に赴任した熊本大学については、「生命科学分野での非常に長い歴史があり、そういうシステムがおかしくなることで病気が起こります」。血管制御の仕組みを幅広く知り、今後は、ダウン症病態の緩和手法の開発や、抗がん、抗生活習慣病に役立つ仕組みも明らかにしたいと話します。そんな応用も見据えた基礎研究については、「基礎研究とは文字通り礎。ヒトへの応用は基礎研究なしには成り立たず、生命科学分野では、培養細胞レベルやモデルマウスレベルで検証を踏まえ、生命現象の根幹となるシステムを捉えておくことが大事です」。



生命資源研究・支援センター  
分子血管制御分野 教授 南 敬  
MINAMI Takashi  
1998年大阪大学薬学研究所大学院博士課程修了。マサチューセッツ工科大学研究員、ハーバード大学医学部研究員、東京大学先端科学技術研究センター等を経て、2015年熊本大学生命資源研究・支援センターへ、専門は血管生物学。

「基礎研究」とは文字通り礎。ヒトへの応用は基礎研究なしには成り立たず、生命科学分野では、培養細胞レベルやモデルマウスレベルで検証を踏まえ、生命現象の根幹となるシステムを捉えておくことが大事です」。

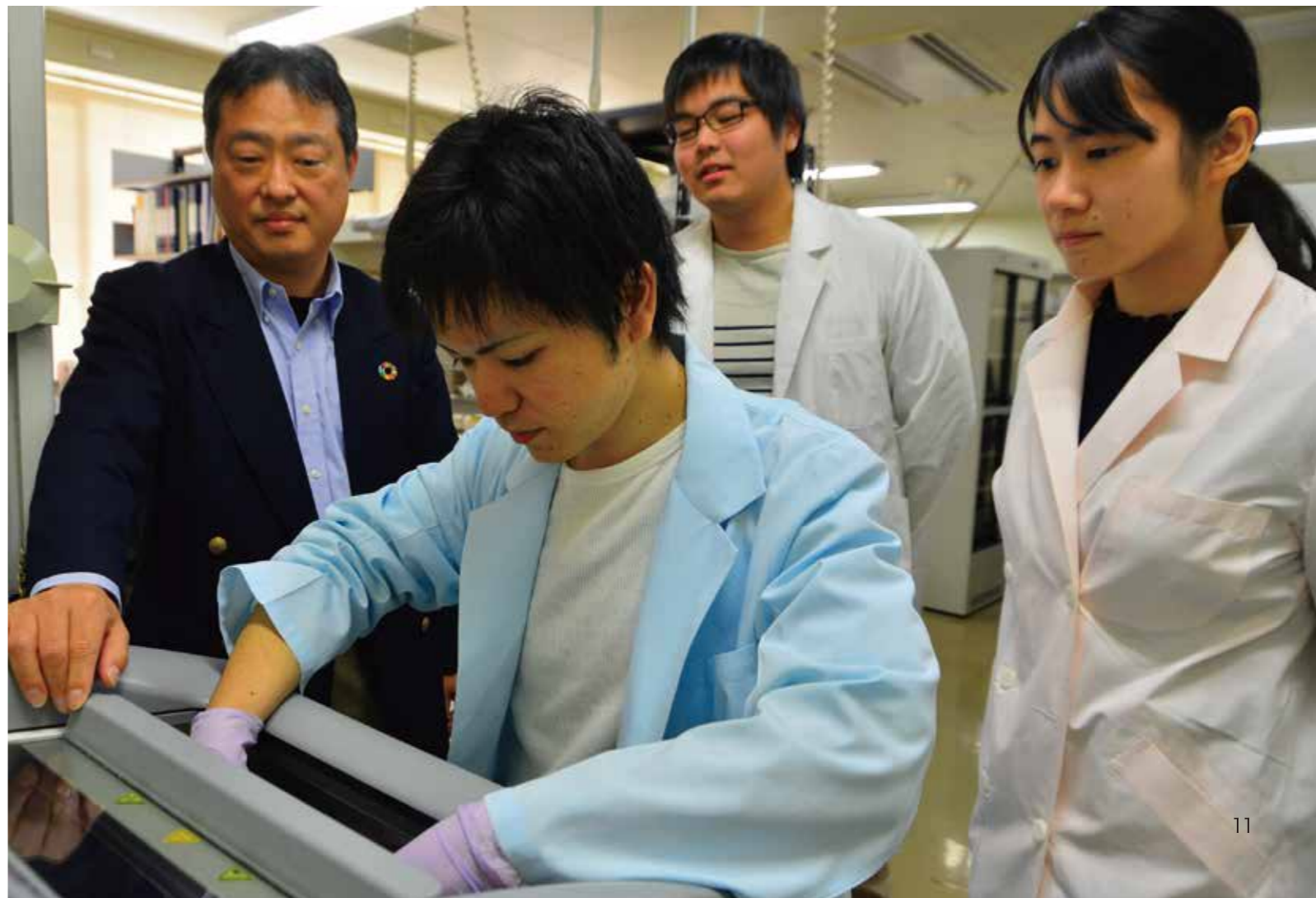
「血管研究からダウン症とがんの関連性を発見」

特集 I **理**を究める

血管生物学

# 生命現象の根幹を担う「血管」 その制御の仕組みを追う

酸素や栄養、薬を適所に運ぶ血管は、体中に張り巡らされ、体の場所によって機能を変えらるという合理的な仕組みを持っています。南 敬教授は、血管の増殖や新生の研究、さらに血管がかかわる疾患の仕組みの解明をも見据えた研究を行っています。



## 先生 interview /



島村 玲雄 講師

先駆的なオランダ財政を見て日本社会の在り方を探ります

税や社会保険料など、公共のお金の流れや社会との関わりを、制度や歴史の視点から研究しています。対象としているのが、先駆的なオランダ財政。日本も、非正規雇用やパートで働く人をどう制度に取り込んでいくのか、早い時期から取り組んでいるオランダを研究し、日本の制度や企業の在り方を考えたいと思っています。

財政を研究するので、公務員志望の学生が多く在籍しています。ただ漠然と公務員を目指すのではなく、自分が何をしたいのか、そして、仕事以外の将来もしっかり考えてほしい。民間企業でも公務員でも「納得して」自分の進む道を決めてほしいと思います。

法学部  
島村 玲雄 講師  
SHIMAMURA Leo



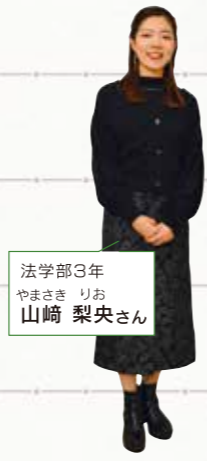
税や社会保障という「公共のお金の流れ」を考える  
—先生にもしっかりと意見を言う、活発な議論を行っています!

—将来の夢は?

公務員になり、人権にかかわる仕事がしたいと思っています。介護や児童虐待にも関心があり、当事者も家族も安心して暮らせる社会づくりに関わることができたらと思っています。

—なぜこの研究室に?

ゼミの説明会で見学に来た時、先輩たちが、先生にも「噛みついていく」ほどの議論をしていたのを見て、私もそういうことがやりたいと思ったからです。島村先生のゼミは、「文献を用いて、自分が気になる社会問題を述べなさい」という、ちょっと難しいものですが、私は本を読むことが苦ではないし、実際のゼミ活動をしたら、ここに入りたいたいという気持ちがありました。ゼミに入ってからすぐは緊張して何も言えませんが、先輩たちの議論は聞いていただけでもためになりました。下準備をきちんとすることで参加できるようになるし、最初は、自分のペースで議論に参加できたらそれで十分です。



法学部3年  
やまさき りお  
山崎 梨央さん

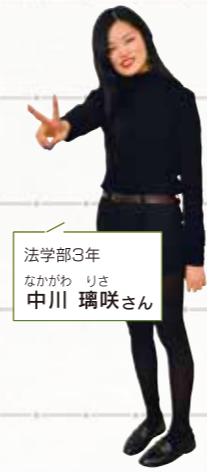
先生に「噛みついていく」ゼミでの議論にひかれました!

—これからの目標は?

私も公務員志望です。地方財政がテーマのこのゼミを選んだのも、衰退する地方の現状を知り、課題解決力を身につけられると思ったから。将来は、地元・熊本を元気にできる仕事がしたいです。

—どんな研究室ですか

最初にゼミを見学した時に、和気あいあいとしていて、ディスカッションが活発だなと感じました。先生も丁寧に質問に答えて下さっていて、私も仲間に入りたいと感じたんです。ゼミ生がみんな集まるのは週に1度ですが、先輩たちがいたころは、図書館などで会うと気さくに話しかけてくれたし、先生も年齢が近くて話しやすいです。これから先輩たちがゼミに入ってきたら、私も、先輩たちのよう後輩に接したいと思っています。夏休みには、先生と3年生で、埼玉県で開催された地方財政の合同ゼミ会に参加しました。ゼミの一環ですが、旅行のようでも楽しかったです!



法学部3年  
なかがわ りさ  
中川 璃咲さん

先輩も先生も気さくで話しやすいゼミです。

### 学生が見た!

## 島村研究室 3つの特徴

- 1 研究テーマ**  
島村先生の専門はオランダ財政学。学生たちの卒論研究は、女性の貧困や、親がいなくなったあとの障がい者支援、教育、宇宙ビジネスなど多岐にわたります。
- 2 ゼミ**  
週1回集まって、日本の社会保障のあり方や政策論、日本社会について検討しています。
- 3 先生**  
私たちをちゃんと見てくれて、無駄に怒ったりしない。違うと思う意見もはっきり言える、話しやすい先生です。

## Lab's Data

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 卒論テーマ</li> <li>・日本におけるドイツ受験制度の導入の可能性</li> <li>・地域包括ケアシステム-地方自治体の役割-</li> <li>・日本におけるeスポーツの課題</li> <li>・LGBTが暮らしやすい社会を考える</li> <li>・日本における売春の合法化</li> <li>・宇宙ビジネスと日本における国内宇宙法の制定</li> <li>・イギリスから学ぶ住民自治・協働の参加促進の課題と今後の展望</li> <li>・地域生活支援事業の任意事業で拡大すべき支援分野について</li> <li>・結婚・出産のためのパートタイム労働</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 就職先</li> <li>・九州財務局</li> <li>・福岡県庁</li> <li>・鹿児島県庁</li> <li>・鹿児島労働局</li> <li>・熊本市役所</li> <li>・熊本大学</li> <li>・大分大学</li> <li>・東京海上ホールディングス株式会社</li> <li>・株式会社読売新聞グループ</li> <li>・株式会社オープンハウス</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>□ メンバー</li> <li>・4年生13名</li> <li>・3年生2名</li> </ul>   | <p>ほか</p>   |



課外授業で障がい者就労支援施設を見学



埼玉大学での合同ゼミ合宿





# 教えて！先輩！

夢を叶えた先輩方に在学生がインタビュー

教育学部から看護師、熊本大学病院看護部長へ！

教育学と医療、両方学んで、  
今は臨床最前線

大学院 自然科学研究科から海上保安庁警備救難部救難課へ  
ダイビング部での経験を活かし、  
人命救助の道へ

こんな選択肢も  
あったんだ！  
と感銘を  
受けました。



大学院自然科学教育部  
理学専攻博士前期課程1年  
いわた あさき  
岩本朝希さん

Q なぜ教育学部の看護系コースから看護師に？

小さいころから医療系に興味はありました。熊大の教育学部に医療分野があることを知り、視野が広がろうだと思って看護教員養成課程に進学しました。卒業生は看護師としての経験を積んだ後、看護学の先生になる人が多いのですが、私は、学生時代の病院実習を通して病院で働きたいと思うようになりました。



仕事を始めたころの山本さん

Q 看護部長になると決まったときは、どう感じましたか？

私は、人の生死や患者さんそれぞれの人生観にふれ、刺激をもらえることに生きがいを感じ、病院勤務を続けてきました。それでも看護部長になったときは、不安もあり、800人もいるスタッフへの責任を感じてかなり覚悟が必要でした。でも何事もやってみないとわかりません。一つひとつ、やりながら不安を解消していきました。時には前任の看護部長に相談したり、同じ職種の方とお話して励ましあったりしています。

Q 熊本大学の後輩にメッセージを。

いろいろなことに興味をもって、人を好きになってほしい。そうすることで活動の場が広がるし、それが自分の



20代頃の山本さん

財産にもなります。パソコン相手や機械相手などさまざまな分野の人がいるでしょうが、全く人と関わらないことではないと思うので、それを大事にしてほしいと思います。



熊本大学病院 副院長 やまもと はるみ  
(患者サービス担当) 山本 治美さん  
看護部長

Q 海上保安庁の潜水士を目指したきっかけは？

ダイビング部に所属しており、監督や仲間、様々な活動を通して多くのことを学び「海で仕事がしたい」と考えていました。「海で仕事がしたい」と考えていました。ちょうどTV等で「海猿」を観たり、当時の特殊救難隊長が特集されていて「人命救助がしたい」と思い入庁を決意しました。

Q 潜水士としての「思い」は？

海難は何時発生するか分からないので、日頃から出動があったらどう対応するかを意識していました。また、潜水士の業務は航海科や機関科などの船務にプラスして行うものなので、まずは船務をしっかり行うことを心掛けていました。

海での事故は亡くなってしまいう方も多いのですが、無事に救助できた方からお礼の手紙を頂いたことは印象に残っています。



良い仲間にも恵まれたダイビング部

Q 現在の業務は？

現在は潜水士のイメージとは違いデスクワークですが、海難時の人命救助や海難等の発生に備えた救助体制の充実強化に関する業務等を行い、現場の潜水士をサポートしています。

Q 今後はどのような仕事を？

どんな形であれ海難救助に関する仕事をしたいと思っていますが、「機動防除隊」や「海上保安試験研究センター」等、化学の知識を活かすことができる部署も希望したいと思っています。

Q 熊本大学の後輩にメッセージを。

大学では自分のやりたいこと、やれることが大きく広がるので、ぜひ色々なことを経験して、自分に向いていることを見極めて欲しいと思います。また、大学生のときにしかできないという点でダイビング部はとてもお勧めです。海に魅力を感じて集まってくるメンバーは通じるものがあるので、きっと良い仲間にも恵まれると思います。

大学卒業生を対象とした海上保安庁への入庁は、当時は海上保安学校のみで概ね24歳まででしたが、令和2年度から海上保安大学の幹部職員養成コースが新設され、海上保安学校も概ね30歳まで受験できるようになっています。



潜水士として勤務していた頃の黒田さん



海上保安庁 警備救難部 救難課 くろだ ともふみ  
黒田 智文さん

## 文 お客様の目的や思いに寄り添いつくる旅行商品にご満足頂けることが喜び



熊大のココがイイ!

木々に囲まれ、ゆったりとした時間の流れるキャンパス。

### 井立田 茉乃

ITACHIDA Mano

株式会社JTB 福岡支店

文学部総合人間学人間科学コース  
平成31年3月卒

平成8年生まれ。鹿児島県出身。鹿児島県立甲南高等学校卒業。モノ・コトつくりやイベント、旅行の企画が好きでJTBに総合職として入社。趣味はお酒、絵画、食べ歩き、美術館巡り、オルレ。

### 高校時代は美術部に所属。描く中で人の心の仕組みに興味

幼い頃から絵を描くことや何かをつくるのが好きだったので、漠然と「何かをつくる仕事」がしたいと考えていました。高校時代は美術部に所属し、3年生の9月まで部活に没頭。絵を描く中で、「見え方」や「好意」など人の心の仕組みに興味を持ち、認知心理学研究室のある熊本大学文学部に進学しました。

### 大学では、研究室の旅行やイベントを企画

1、2年次は、大人数で一つのものをつくる経験がしたいと考え学園実行委員会に所属。300人以上の大きな団体だったので、色々なタイプの人と話し協力し、様々な価値観を知ることができました。3、4年次は研究室中心の生活で、研究室の仲間・先生を誘って旅行や季節のイベントを企画し楽しく学びました。

### 現在は法人営業を担当。期待を超える価値の提供に苦労と喜び

現在は、JTBで法人営業を担当。お客様の課題、目的に合わせた旅行を一からつくることができるのが魅力で入社を決めました。主に社員旅行や研修旅行、ビジネスラベルの一つであるMICEを専門にヒアリングから企画、添乗まで一貫して行っています。様々な業種、思いを持つお客様に寄り添い期待を超える価値を提供するのは大変ですが、自分が一つ一つつくれたものでお客様に満足して頂けることにやりがいを感じます。

## 理 熊本県の柑橘類「不知火」の病害を減らす栽培方法確立に取り組んでいます



熊大のココがイイ!

個性的な学生、尊敬できる先生方、相談しやすい環境。

### 工藤 裕美

KUDO Hiromi

熊本県農業研究センター果樹研究所  
病虫化学研究室

理学部理学科  
平成28年3月卒  
大学院自然科学研究科博士前期課程  
理学専攻生命科学コース  
平成30年3月卒

平成5年生まれ。宮崎県延岡市出身。私立延岡学園高等学校から熊本大学理学部理学科に進学。平成30年熊本県庁へ入庁。

### 高校が一番楽しかった生物。担当の先生との出会いから理学部進学を決意

高校時代、一番楽しかったのが生物の授業でした。個性が強い担当の先生の授業が楽しみで、試験期間に関係なく生物の本や資料を読んでいた。将来の夢ややりたいことは特になかったのですが、この先生に出会ってからは生物の勉強をこれからも続けたいという気持ちになり、理学部進学を決めました。

### 勉強、遊びと充実した大学時代。圃場に発生する害虫にも興味

入学当初は、不安な気持ちでいっぱいでしたが、すぐに気の合う友人ができ、定期試験の時は一緒に勉強をし、授業がない日は街に遊びに行き、楽しい大学生活を過ごしました。研究室配属後は、個性豊かな先輩や同期に恵まれ、卒業後の今でも連絡を取り合っています。また、研究に用いた植物だけでなく、圃場でさまざまな植物を育てる実習で、圃場に生育する害虫を知り、興味を持ちました。

### 過去の実験や考え方を学び、今は自分なりの実験に取り組む

ハウス栽培の柑橘類「不知火」に発生する果皮の病害について研究をしています。卒業・修士論文の研究テーマとは全く異なる分野のため、初年度は研究というよりは過去の試験の再現をして実験手法や考え方を勉強しました。2年目以降からは自分なりに考えた実験に取り組んで、病害の発生を少なく抑える栽培方法を確立することを目標に努力しています。

## 医 常に、よりよい診療について考えながら自己研鑽に励んでいます



熊大のココがイイ!

都会過ぎず、田舎過ぎない熊本だからこそ、安定感あるキャンパスライフが送れます。

### 野田 一将

NODA Kazumasa

熊本中央病院 放射線科

医学部保健学科放射線技術科学専攻  
平成21年3月卒

昭和60年生まれ。福岡県柳川市出身。福岡県立伝習館高校から岐阜医療技術短期大学を経て、熊本大学に編入。卒業後は、大学病院でCTやMRI等のモダリティを勉強したいと、東邦大学医療センター大森病院で9年間勤務。現在は熊本中央病院で2年目。趣味はバスケット。夢は家建てた際、庭にバスケットコートを作ること(1/4コートでない、笑)。

### 診療業務に携わりつつ研究もできる診療放射線技師の仕事を知った

一つの物事に没頭する性格もあり、高校時代はなんとなく研究者になりたいと思っていました。そんな漠然とした夢だった時、診療放射線技師の仕事は日々の診療業務だけでなく、研究もできることを知り、自分に向いているのでは...と思ったことを覚えています。

### 講義のない日は病院のバイトで研鑽。サークル活動も思い切り楽しんだ

岐阜医療技術短期大学を卒業し国家資格を取得してからの熊本大学編入だったこともあり、早く現場に立ちたいという思いがありました。そこで、講義を3日間に詰め込んで、他の日は病院でバイトに勤めました。夕方からはフットサルのサークルで仲間たちと楽しんでいました。本当に充実した大学生活だったと思います。

### 「自分たちはテクノロジスト」。先輩技師の言葉を胸に刻んで

せっかくいるんなことを学ぶために選んだ病院だったのに、中池みをしていた私に、ある先輩技師が「俺たちはテクノロジストだ」と言ってくれたことが心に残っています。常に何かを考えて診療業務に携わることの大事さを知りました。自己研鑽はもちろんのこと、より良い診療業務を行うための研究に、テクノロジストとしてがんばって取り組んでいこうと思います。

## 法 大学事務職員が利用するパソコンやネットワークに関わる業務をメインに担当



熊大のココがイイ!

些細なことでも懇切・丁寧に指導していただける先生がたくさんいること。

### 荒田 良則

ARATA Yoshinori

国立大学法人熊本大学教育研究支援部  
情報企画課

法学部法学科  
平成16年3月卒

昭和55年生まれ。福岡県北九州市出身。福岡県立門司高等学校卒業。大学時代は、民法(物権法)、法社会学専攻のゼミに所属。趣味は読書(歴史小説)、日々の自転車通勤、息子・娘と一緒に遊ぶこと。

### 公務員だった父から法律の重要さを学び、法学部に興味を持った

小さい頃から日本史に興味があり、当初は文学部への進学を志望していましたが、学力が足りずあえなく断念。父親が公務員ということもあり法律の重要さを説かれ、次第に法学部に興味を持つようになりました。現役合格は叶いませんでしたが、2度目の受験で熊本大学法学部に合格することができました。

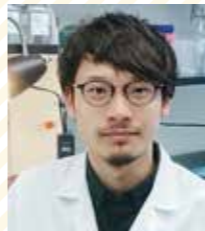
### 厳しかった分、ゼミでは文書作成のイロハを徹底して身につけられた

1、2年次は、友人らとソフトボール、サッカー等で遊ぶ日々でした。3年次からゼミに配属され、担当の先生に論文作成などみっちり指導して頂きました。当時はとても厳しく感じましたが、そのおかげで文書作成のイロハを学ぶことができました。大学4年次には、民間企業、公務員、大学院進学、いずれもはっきりした目標を定められず、中途半端なまま卒業してしまいました。

### 業務に不可欠なPCやネットワーク環境の安定に大きな責任

大学卒業後、1年半の浪人生活を経て本学に採用されました。現在は、大学事務職員が利用するパソコン、ネットワーク等に係る業務をメインに担当。職員の業務遂行のためにパソコン環境の安定的運用は不可欠であり、現在の業務に大きな責任を感じつつ周りの方のサポートを得て仕事に取り組んでいます。

## 薬 呼吸器感染に対する免疫機構の解明と、創薬や予防に繋がる発見を目指して



熊大のココがイイ!

地元と世界、両方で活躍できる教育環境。阿蘇や天草、繁華街にもすぐ行ける立地。

### 亀井 峻輔

KAMEI Shunsuke

ジョージア州立大学医科学研究所(アメリカ)  
博士研究員

薬学部 創薬・生命薬科学科  
平成25年3月卒  
大学院薬学教育科博士前期課程創薬・生命薬科学専攻  
平成27年3月修了  
大学院薬学教育科博士後期課程創薬・生命薬科学専攻  
平成30年3月修了  
(博士課程教育リーディングプログラム HIGOプログラム 修了)

平成2年生まれ。長崎県佐世保市出身。長崎県立佐世保北高等学校卒業。大学院修了後、世界で活躍できる研究者を目指し渡米、現職に就く。現在の楽しみは、アメリカの名所巡りやB級グルメ探索。

### 小さい頃から科学好き。薬で世界の人を救える創薬に興味

小さい頃から科学が大好きで、将来は研究者になりたいと漠然と思っていました。転機は高校生の頃、祖母を難治性の病気で亡くしたことから、生命科学に携わる研究者になることを志しました。医学の道もありましたが、一つの薬を開発できれば世界中の多くの患者を救うことができる、「創薬」に特に興味を持ち、薬学部に進学しました。

### 多くの仲間と苦楽を共にした研究生生活は、今の自分の礎

入学当初は、水泳部の活動や講義、友達との飲み会・旅行等であっという間に時間が過ぎたように思います。学部3年からは研究の毎日で、多くの仲間とさまざまな苦楽を共にしたこの時間は、今の自分の礎になっています。またリーディング大学院にも所属し、異分野交流や海外研修で多くの経験を得たことは、現在の仕事にも大いに役立っています。

### 世界中から集まっている研究者から、最先端の研究や異文化を学ぶ毎日

博士後期課程修了後は、ジョージア州立大学医科学研究所にて博士研究員として、呼吸器感染に対する免疫機構の解明を中心に、将来創薬や疾患予防に繋がる発見ができるよう日々研究に精進しています。また世界中から集まった研究者から、最先端の研究や各国の文化を学ぶことのできる環境にワクワクする毎日です。

## 工 増加傾向にある非破壊検査の需要 さまざまなセンサを開発し社会に貢献したい



熊大のココがイイ!

先生やスタッフの方とアットホームな雰囲気でお話できること。

### 米倉 新二

YONEKURA Shinji

株式会社デンロコーポレーション(大阪府)

工学部情報電気電子工学科  
平成27年3月卒  
大学院自然科学研究科博士前期課程  
情報電気電子工学専攻  
平成29年3月修了

平成4年生まれ。大分県大分市出身。大分県立大分舞鶴高校から熊本大学に進学。趣味は野球観戦と温泉。

### テレビや携帯電話を自分で作ってみたい。必要な知識を得たいと工学部へ

高校生の頃は、身近なものがどのようにできているのかと考えるのが好きでした。その中でも、現代の生活に欠かせない、テレビや携帯電話などの電化製品を自分で作ってみたいと考えていました。それらに必要な基礎知識を学ぶことのできる熊本大学の情報電気電子工学科への進学を決めました。

### 企業との共同研究も活発な研究室で、忙しくも充実した大学生活

大学時代は、5歳から続けてきた空手道部に所属。研究室所属後は研究に没頭してました。企業との共同研究が盛んに行われている研究室で忙しくもありましたが、先生や研究室仲間と旅行に行くなど、楽しく充実した大学生活を過ごしました。部活や研究室の友人とは今でも連絡を取り合っており、かけがえのない仲間が得られたと感じています。

### 大学で学んだ研究へのアプローチが今の仕事に役立っている

「非破壊検査用のセンサ」の研究開発を行っています。非破壊検査とは検査対象を壊すことなく、その欠陥や劣化の状況を調べる検査技術のことです。現在は試行錯誤を繰り返している段階で、大学時代に学んだ研究へのアプローチの仕方は、今の仕事に役立っています。昨今、非破壊検査の需要は増加傾向にあるので、様々な用途のセンサを開発し、安全・安心な社会づくりに貢献したいです。



## 本学の卒業生たちの今に迫る「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍している

先輩たちの様子を、これまでの歩みや苦労、

そして喜び、楽しみなどを通じてご紹介します。

## 教 先輩教員や子どもたちに支えられて 充実した毎日を送っています



熊大のココがイイ!

緑あふれる学内には四季折々の美しさがある。一生付き合っていきたい友人にたくさん会える。

### 坂本 裕美子

SAKAMOTO Yumiko

熊本市立砂取小学校 教諭

教育学部小学校教員養成課程  
平成29年3月卒  
大学院教育学研究科教職大学院課程  
平成31年3月修了

平成6年生まれ。福岡県福岡市出身。福岡県立香住丘高校から熊本大学教育学部を経て熊本大学大学院へ。小学校の時の担任の先生に憧れ、教師の道を目指す。現在は熊本市内の小学校に勤務。趣味は、御朱印集め。

### 子ども一人ひとりの良さを認めてくれた小学校の先生に憧れて

小学校6年生の時の担任の先生に憧れて、高校時代は、小学校の先生になりたいと考えていました。その先生は子ども一人ひとりの良さをたくさん認めてくれ、私は毎日学校に行くことが楽しみでした。そんな先生のように、私も誰かを元気づけられるようになりたいと思っていました。

### 大学院2年間で、学ぶことの魅力に取りつかれた

大学学部時代は、体育会ハンドボール部に入学し、放課後は体育館で汗を流す日々でした。4年で引退し、大学院の2年間は学ぶことのおもしろさに取りつかれて、ゼミの仲間や先生と話したり、本を読んだり、小学校に実習に行ったりしていました。また、旅行にはまり、国内外、さまざまなところに行きました。

### 困った時は、大学時代に学んだことを思い出して

現在は熊本市の小学校で教員をしています。人と接する仕事なので、時には思うようにいかない日もあります。困った時ほど、大学で学んだことを思い出しながら日々がんばっています。周りの先輩方や26人の子どもたちに支えられ充実した毎日です。

REPORT 第2回くまだい研究フェアを開催しました

1月11日(土)に「第2回くまだい研究フェア」を工学部百周年記念館にて開催しました。同フェアは、本学で重点領域と位置づけている研究や、学内の研究推進事業などに採択されている研究等を紹介する試みとして昨年に引き続き開催したものです。高校生、企業関係者など約250名の参加者を前に、本学で取り組まれている研究テーマ17件、熊本大学から誕生したベンチャー企業等4件について、講演及びポスター発表形式でわかりやすく紹介しました。また、今回は初の試みとして、高校生・高専生によるポスターセッションを企画しました。会場には、熊本県内外10校29テーマのポスターが掲示され、各所で活発な意見交換が行われました。発表した高校生には発表証明書が交付されました。高校生が取り組む課題の中には、本学の研究者や行政等の専門機関と連携したものもあり、今後も本学において高大連携をはじめとする多様な連携創出が期待されます。参加者からは「熊大の研究や研究者を知る大変良いきっかけ」「ぜひ来年も継続して開催してほしい」等の声が寄せられました。



REPORT 熊本大学教育学部附属特別支援学校PTAが文部科学大臣表彰を受賞しました

熊本大学教育学部附属特別支援学校 PTA(澤田 満会長)は、全保護者が子どもたちの自立と社会参加を目指し家庭で取り組んだ実践を「PTA実践集」として発行したことなどが高く評価され、11月15日(金)に「令和元年度優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞しました。1月15日には澤田会長らが原田信志学長へ受賞の報告を行い、原田学長からは、「PTA活動は日頃から大変ご苦労もあろうが、昨年度の2件の大臣表彰に続き今回またこのような評価をいただいたことは大学としても誇りに思います」との喜びの言葉が述べられました。



REPORT 「女性研究者賞表彰」及び「女性研究者奨励賞表彰」表彰式を行いました

2月17日(月)に、令和元年度「女性研究者賞表彰」及び「女性研究者奨励賞表彰」表彰式を開催しました。本学では、男女共同参画推進に関する優れた取組に対して表彰を行うことを男女共同参画推進基本計画に謳っており、これに基づいて平成28年度に表彰制度を創設し、今回は4回目の実施となりました。熊本県内の女性研究者を対象として昨年11月に被表彰者の公募を行い、学内外の優秀な女性研究者からの応募を得ることができました。厳正な選考の結果、女性研究者賞表彰の被表彰者として佐田 亜衣子氏(熊本大学)、女性研究者奨励賞表彰の被表彰者として櫻木 美菜氏(崇城大学)を選出しました。表彰式では原田信志学長から「今後、この表彰を熊本県内の女性研究者の研究力向上に繋がるものとして発展させていくことを期待します」と挨拶があり、被表彰者に表彰状及び副賞として熊本県の伝統工芸品である肥後象嵌のアクセサリーが贈呈されました。引き続き、被表彰者による研究発表会が行われ、佐田氏及び櫻木氏がそれぞれの専門分野における現在の研究と将来の研究計画について発表を行いました。



佐田 亜衣子氏(左から3人目)、櫻木美菜氏(右から2人目)

REPORT 令和元年度熊本大学男女共同参画推進フォーラムを開催しました

2月20日(木)に、令和元年度熊本大学男女共同参画推進フォーラムを開催し、本学の学生・教職員のほか、一般の参加者を含めた約150名が参加しました。講師に株式会社 A and Live代表取締役の高田 明氏(株式会社ジャパネットたかた前社長)をお招きし、約2時間にわたる講演が行われました。講演では、「夢持ち続け日々精進」という演題のもと、高田氏の経歴等を振り返りながら、「ミッション」「パッション」「アクション」の3つをキーワードとして、「伝えることの大切さ」や「伝えるために必要なこと」についてユーモアを交えつつ語られました。その語り口に、会場では度々笑いや拍手が起こっていました。講演終了後には、高田氏と参加者全員での写真撮影を行い、フォーラムは盛況のうちに幕を閉じました。



株式会社 A and Live代表取締役 高田 明氏

REPORT 第14回先端科学技術分野学生国際会議 (The 14th ICAST 2019 Kumamoto)を開催しました

大学院自然科学教育部は、11月28日(木)、29日(金)に「第14回先端科学技術分野学生国際会議(The 14th ICAST\*2019 Kumamoto)」を開催しました。ICASTは学生により運営される国際会議で、英語による研究発表や討論により学生の実践力及び英語運用能力を強化し、海外からの学生との交流により国際感覚を養うことを目的としています。平成20年より海外交流協定校での開催も含め毎年開催され、第14回目は熊本大学での開催となりました。今回は、本学からの参加者128名に加え、熊本県内の高校から45名、海外交流協定校(中国、台湾、韓国、インドネシア、フィリピン、トルコ、フランス、チェコ)から42名が参加し、口頭発表111件、ポスター発表40件を英語で行いました。また、ICAST学生運営委員会を組織し、オープニングセッションを含む各セッションの司会進行等が学生により執り行われ、有意義な国際会議となりました。11月30日(土)に実施したフィールドトリップには69名が参加し、交流を深めました。



\* International Student Conference on Advanced Science and Technology

REPORT ダブルディグリープログラム合同カンファランスが開催されました

12月2日(月)及び3日(火)に、タイのマヒドン大学シリラ病院でダブルディグリープログラム合同カンファランスが開催されました。ダブルディグリープログラムとは、海外交流協定校と本学の一連のカリキュラムを修了すると、両大学から学位を取得できる制度のことで、熊本大学医学教育部では、国際化の一環として2018年から博士後期課程に導入しています。この2年間で5名の大学院生が入学しており、タイのマヒドン大学医学部、コンケン大学医学部及びチェンマイ大学医学部との間ですでに協定を締結しているほか、来年からタイのプリンスオブソククラ大学医学部も参加する予定です。同プログラムの開始に伴い開催された本カンファランスには、同プログラムの対象候補となる学生をはじめ、多くの学生・教員・研究者が参加しました。熊本大学からは、富澤一仁医学教育部長をはじめとする9名の教員が参加し、がん、感染症、脳神経の3つのテーマで発表を行い、熱心な討論が交わされました。2日目には、テーマ別の小グループのワークショップで、共同研究や学生・教員交流についての具体的な討議が行われました。来年のカンファランスはコンケン大学で開催される予定です。



REPORT きらめきユースプロジェクト実施報告会を開催しました

12月25日(水)に「令和元年度きらめきユースプロジェクト実施報告会」を開催しました。きらめきユースプロジェクトは、学生自身に実体験をさせることにより、学生の自主性、創造性、独創性、社会で活躍できる能力を高めることが期待できる事業に対し、大学が経済的支援を行うものです。平成20年度から実施しており、今年度は34件の申請に対して15件が採択されました。報告会では、学生がポスター発表形式で自主的に計画した企画の発表を行い、学生にとっては企画・実施するだけでなく、他の企画を学ぶことができるとともにポスター発表でプレゼン能力のスキルアップにも繋がるという相乗効果のあるイベントとなっています。当日は、原田学長をはじめ教職員が参加し、熱心に学生の発表に耳を傾けていました。審査は、学長と一般見学者の意見を取り入れて行われ、学長表彰の対象となる最優秀には、「認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに貢献する」をコンセプトに、行政・地域住民・事業所と共に活動し、社会貢献を行った「Orange Project」が選ばれました。他には、黒髪キャンパス周辺における商業施設と大学との関わりを通して社会への新たな結節点を創っていくプロジェクトを行った「くまじゅく」及び外部機関と連携した盲学校用支援器具の開発と製作・寄贈による社会貢献を行った「Soleil(ソレイユ)」が高い評価を得ました。



## 熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.49 (令和元年 11 月 1 日～令和 2 年 1 月 31 日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約 14 億 3925 万円（令和 2 年 1 月 31 日現在）のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組みさせていただきました。また、熊本地震復興事業基金へお寄せいただきました寄附金は、熊本大学の復興に向けて、被害学生に対する修学支援や被災しました建物の修繕費、設備・機器の更新・修理費のために、大切に活用させていただきます。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、令和元年 11 月 1 日から令和 2 年 1 月 31 日までの間に入金を確認させていただきました個人 148 名、10 法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局（電話：096-342-2029）までご連絡ください。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 1. お名前・寄附金額の掲載

（寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。）※（ ）内の数字は、累計寄附金額（万円）です。

<熊本大学基金>

【266 万円】	熊本大学医学部医学科後援会（1027）				
【100 万円】	安仁屋 眞昭（100）	芳賀 義雄（805）			
【50 万円】	株式会社建吉組（50）				
【30 万円】	上野 久美子（30）				
【10 万円】	甲斐 広文（55）	中上 博秋（11）	中国 克久（41）		
【5 万円以下】	荒木 弘（0.5）	伊藤 トキ（2）	大倉 敬治（1.5）	葛原 民代（1）	弟子丸 元紀（15）
	當眞 嗣史（5）	藤村 重利（3）	宮川 太平（14）	宮崎 忠允（2）	本島 昭男（24）
	吉田 浩（0.5）	有限会社アップル薬局（5）			

### 2. お名前のみ掲載

（五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。）※〔 〕内の数字は、累計寄附回数（回目）です。

<熊本大学基金>

麻生 英征	雨森 雅子〔2〕	粟田 淳子	家村 和千代〔3〕	稲葉 絹子	上田 祐規〔2〕	浦田 修行〔3〕	大瀬 敏克
大矢 唯男〔3〕	沖津 信子〔2〕	勝田 昭一〔2〕	河合 キヨミ	川崎 廣美	國崎 征昭	倉岡 隆夫〔2〕	黒澤 喜美枝
小坂 悟	後藤 隆興	坂梨 昭五	坂本 俊昭	坂本 遼一〔5〕	瀬下 博志〔2〕	立野 和子	谷水 恭子
太郎良 盛幸	丹生 正作〔2〕	千島 英一〔7〕	塚本 有貴子〔2〕	西 信介〔2〕	波多野 恭行〔18〕	春山 康久〔4〕	樋口 雅秀〔7〕
福田 俊幸〔4〕	福原 徳也	福村 佳代子〔5〕	菱田 真也	宮崎 邦介	宮崎 研二	宮崎 静子	宮田 隆宏
宮村 泰秀	村下 範子〔2〕	柳田 敏孝〔13〕	矢原 幸治〔2〕	山下 一郎	山田 典子	吉田 和秀	渡邊 将人
渡部 由和	徳蓮寺門信徒一同						

### 3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人 81 名、4 法人・団体等



## 令和元年度感謝状贈呈・学生表彰を行いました

3月13日（金）に、令和元年度の課外活動指導者に対する感謝状贈呈及び学生表彰を行いました。平成14年度から続くこの表彰制度では、学術研究や課外活動において優秀な成績を収めた、または顕著な活動が認められた学生や学生団体を表彰しています。また、課外活動指導者に対する感謝状の贈呈もあわせて行っています。

令和元年度は課外活動指導者3名に感謝状を、5団体及び個人12名に表彰状を授与しました。

課外活動の指導に対する感謝状贈呈者		
サークル名	指導者名	指導期間
柔道部	中村 綱郎	20 年
弓道部	尾方 悦子	53 年
	坂元 京子	11 年

学生表彰者（課外活動関係）		
『団体』		
団体名	大会等名	成績
ダイビング部	第 26 回全日本スポーツダイビング室内選手権大会	大学対抗 200m フリッパーリレー男女 1 位
医学部 フットサル部「SMILE」	第 15 回オールメディカルフットサル大会	男子の部 優勝
熊本大学 ECR プロジェクト	2019 Ene-1 Challenge（乾電池自動車レース）	大学・高専・専門学校部門 優勝
弓道部	第 67 回全日本学生弓道選手権大会	女子団体 3 位
	第 57 回九州学生弓道選手権大会	女子 最優秀射技校
	第 54 回九州学生弓道新人戦指宿大会	女子 最優秀射技校
Orange Project	令和元年度 学生自主企画支援事業「きらめきユースプロジェクト」事業名：Orange Project が実施する認知症啓発活動事業（映画上映会）	最優秀

『個人』				
サークル名	氏名	所属	大会等名	成績
ダイビング部	佐藤 翔太	工学部 3 年	第 26 回全日本スポーツダイビング室内選手権大会	50m フリッパー男子 年齢別 3 位
ダイビング部	池上 奈穂	工学部 3 年	第 26 回全日本スポーツダイビング室内選手権大会	400m フリッパー女子 2 位
陸上競技部	倉原 菜摘	教育学部 4 年	第 58 回全日本 50 km 競歩高畠大会	一般女子 50km 競歩 3 位
陸上競技部	西原 大賀	工学部 3 年	第 4 回九州学生陸上競技新人選手権大会	男子 10000m 優勝
ヨット部	奥田 耕大	工学部 3 年	2019 年 全日本学生 シングルハンドレガッタ	レーザーラジアルクラス 3 位
弓道部	釘宮 菜々子	法学部 3 年	第 43 回女子東西学生弓道選抜対抗試合	準優勝
弓道部	河野 龍大	工学部 2 年	第 54 回九州学生弓道新人戦指宿大会	男子 最優秀射士
テコンドー部	金子 昌大朗	法学部 4 年	2019 国技院ハンマダン日本テコンドー大会	キョルギの部 一般男子上級-63kg 優勝
			第 17 回全九州学生テコンドー選手権大会	男子-68kg 級 優勝
テコンドー部	船津 大地	工学部 3 年	第 17 回全九州学生テコンドー選手権大会	男子-54kg 級 優勝
テコンドー部	植原 健太	工学部 3 年	第 17 回全九州学生テコンドー選手権大会	男子-58kg 級 優勝
テコンドー部	井上 雄大	工学部 3 年	2019 駐福岡大韓民国総領事杯 日韓オープンテコンドー選手権大会	キョルギ 一般男子-58kg 上級・有段の部 優勝
アーチェリー部	渡邊 優斗	理学部 1 年	第 54 回九州学生アーチェリー新人選手権大会	初心者の部 男子優勝



## 栄誉会員への感謝状贈呈式を行いました

1月31日（金）に、数回に亘り多額の御寄附を賜りました熊本大学医学部医学科後援会様に対して、感謝状と記念品（扁額）の贈呈式が執り行われました。寄附金は医学部教育研究活動支援に使用させていただきます。

